

会 振

大分県美術協会会長に就任して…………… 1
 第27回県芸術祭アルバム…………… 2～3
 第27回県芸術祭賞を贈呈…………… 4
 第27回県芸術祭に参加して…………… 5
 海外研修報告…………… 6
 「仏の里」と「童話の里」の文化交流会…7
 事務局だより…………… 8



大分県芸術文化振興会議

シンボルマーク

No.84

平成 3.12

■発行人:仲町謙吉 ■編集人:秋葉正嗣

(題字 境碗山)



大分県美術協会会長に就任して

大分県美術協会会長 脇 正 人

高度経済成長期に、これからは地方の時代、地方が文化の拠点となる等と騒がれたが、かなり年月がたった今、大分の文化活動は随分盛んになった。大分県最大の文化イベントである芸術祭を例にとってみても、第1回の参加団体は23、第19回が108団体、今年第27回では参加、特別参加、協賛を加えると総数170行事と過去最多の盛況ぶりをみてもわかる。

さて、大分県美術協会も芸術祭の主催行事として第27回大分県美術展(10月1日～10月20日)とその地方巡回展を開催したが、これは6月の総会后新役員による初事業ともなった。

単年度では最大事業である秋季美術展をふりかえり、今後の県美協のあり方を考えてみたい。3部会の搬入点数は合計2,025点、陳列点数1,268点で今回も厳選となった。審査評として日洋彫工部では、生活にかかわったまじめな姿勢と、作家と県民が作品を介して対話できる状況がよいと言われる。

書道部は、実力伯仲で自由な個性的な作品が多く、高い水準の部門もあるとのこと。更に写真部は全九州ではAクラス。大衆的、通俗的な面で良い作品が多いとのことであった。

個々の部門については自由な表現の不足、洗練度が不足との指摘もあった。これらを総合判断し次のようなことを課題と考えている。

○展覧会場の確保

自由な表現こそ創造の基本だが、出品作品の大きさに制限があり、厳選の上、陳列は二段、三段という現状は早期に解決しなければならない。

○若い人材の育成

出品者、会員とも高齢化が進んでいる。積極的に活動する人々が大勢いて創造し、発表し、連帯して活力が生まれる。若い有能な人材が望まれる。

○創造の原点の明確化

先ずできることから自分の世界を目指し、借り物でない制作、創造の必然を探り出すこと、感覚や知性を磨くことが大事と思う。

以上のことが少しでも良い方向に進めば、より活気のある会になると思っている。

終りに芸術について一言。芸術は大分県芸術文化の推進母体として多くの自主事業、団体の事業補助等で、年々その成果をあげている。今後、大分県の文化団体の発展の為、更に積極的な活動をされるよう加盟団体として強く望んでいる。



9/1 成

「ふる里の山」

児玉成弘

(行動美術協会員・前県美協(美)事務局長)

第27回大分県芸術祭

第27回 県芸術祭アルバム

■ 開幕公演



「エリカ・フラウエンコール」の熱唱

■ 中幕公演



華麗な日ソ友好バレエ

■ 閉幕公演



グループUNOアンサンブルオーケストラの心揺さぶる音色

第27回大分県芸術祭



県美協の「巡回展」県下20地区で公演



県民オペラ「魔笛」を熱演



日・ソ若手ピアニストの競演で幕を開けた第7回園田高弘賞ピアノコンクールも、園田高弘賞にソ連のエレーナ・ロザノワさんが選ばれ、国際コンクールにふさわしい内容であった。



喜びのロザノワさん

第27回大分県芸術祭賞を贈呈

エリカフラウエンコールなど6団体、5個人に

賞	受賞者(団体・個人)	功 績 概 要	賞	受賞者(団体・個人)	功 績 概 要
芸術祭賞	エリカフラウエンコール 代表/宮下 美沙	「コーラスの花束」と題して「荒城の月」などおなじみの名曲を美しいハーモニーで熱唱され、第27回県芸術祭開幕公演を成功させた実績は大きい。また、平素から歌を通して郷土文化の育成・普及にも努めており、メンバーの皆さんのひたむきな音楽への情熱と意欲的なご精進の賜物でありその成果が大である。	功 勞 賞	弥生町文化協会	弥生町文化協会は町民会館の新築を契機に平成2年に520人の会員で結成された。それ以来「弥生町文化祭」を開催し、町民参加の文化行事を定着させることにより、地域文化の新しい方向づけを提示したことは他町村の模範となりその功績は大である。
	大分県洋舞踊協会	第27回県芸術祭中幕行事として大分・ソ連友好バレエ公演を開催し、「世界的なバレエ芸術家による夢の華麗な一大絵巻」で好評を得た。クラシックバレエの本場ソ連から選りすぐった一流の芸術家の公演で、大分の多くの舞踊家に刺激を与え、大分の舞踊のレベルアップに大きく貢献するとともに、大分・ソ連の文化の国際交流を成功させた功績は大きい。		竹田直入・大野地区広域市町村実行委員会	第27回県芸術祭開幕公演「コーラスの花束」「滝廉太郎音楽の里」の開催にあたり、地元実行委員会として、主催団体エリカフラウエンコールとともに大きな役割を果たし、その成功に導いた功績は誠に大きい。
	グループU N O 代表/林 フミヨ	第27回芸術祭の閉幕を飾る「協奏曲の夕べ」を開催。今回の公演は、オーケストラとの共演ということで、意気込みも非常に大きいものがあり、その成果は高く評価され、グループU N O 20年の土壌の蓄積があると専門家の評価も高い。		三浦 美穂 団体/花の会	昭和60年第1回花の会ジョイントリサイタル以来数々の出演を重ね、卓越した歌唱・演技力を発揮し、声楽家として芸術の向上に努めた功績は大きい。
功 勞 賞	山崎 泰子 団体/明野レディーズコーラス	昭和46年結成以来20年間指揮者として音楽活動にたゆまぬ努力を続けられ、今年20周年記念演奏会を盛大に開催された。コーラスはまわりの人を明るい気持ちにさせることだと、明野レディーズコーラスをこれまで指導し、地域文化の向上に努めた功績は大きい。	奨 励 賞	安東 光子 団体/大分県洋舞踊協会	全国舞踊コンクールバレエ第一部門に第3位で入賞し現在は笠木研究所門下生として厳しい指導を行い、11月4日の大分ソ連友好バレエ公演においてはソリストとして素晴らしい成果をあげた。本年のバレエ界への功績は誠に大である。
	杉田 信男 団体/大分市少年少女合唱団	昭和50年、第1回大分市民音楽会の企画・運営に携わって以来、17年の長きにわたり、講師・運営委員長として、大分市民音楽会の発展と大分市の音楽教育振興に多大な功績を残してきた。 一方、昭和57年、大分市少年少女合唱団を結団して以来、団の指導・育成にも力を尽くされ、本市音楽教育の発展に数多くの業績を残した。少年少女合唱団は「ウィーン・モーツァルト少年合唱団」・「チェコ少年少女合唱団」と共演したり、昭和62年に始まった「少年少女合唱祭全国大会」にこれまで3度も出場するなど、九州でも有数の合唱団に成長させた功績は大きい。		青井百合子 団体/大分県民演劇制作協議会 住所/大分市花津留1-12-5 職業/会社員 年齢/31歳	県芸術祭共催行事「二豊悪女列伝妖鬼大神社女」の主役大神社女を演じた演技力は長年培われた基礎的な力を一度に開花させた大輪のような見事さで公演を一層盛り上げた。
				俳 誌「蔭」発行所	昭和47年1月故高野素十師の懇意により「蔭」を創刊。 本年7月城島高原に知事を迎え、創刊20周年夏行全国俳句大会を開催した。 「蔭」は大分県俳句連盟の主流となり、「有季定型」の普及に貢献する等、本県の芸術文化の向上、発展に寄与した功績は誠に大である。

第27回県芸術祭に参加して

日本民謡梅幸会

日本コロムビア専属日本民謡梅幸会

会主 森山幸吉

昨年、竹田地方の大水害のため、開幕公演が中止となり今年には是非とも要望があり、竹田文化会館に於て、第27回県芸術祭参加行事として日本民謡梅幸会発表会「岡城民謡の祭典」として地方ではじめての公演をし、ホール満席の聴衆に盛大で特に三味線合奏、構成民謡、太鼓演奏、その他40曲を昔ながらに演奏し最後まで退屈せず観客より良き反響が届いた事は会員一同感謝の念で一ぱいである。まだまだ未熟な点が多く伝統文化向上のために取りくまなければならないと思う。他県からの津軽三味線演奏を聞くが、大分県は大分県なりの三味線を如何に向上するか、又聞かせる音にするか、他県の唄を唄うのも良いが県内にもすばらしい唄が数多くあるのでそれに振り付けし、民謡発掘に努力し地元民謡を大事に唄いつづける事が現在われわれに課せられた責任であると思う。

関心流興道吟詩会

関心流興道吟詩会

大分県本部長 幸重寛洲

県下の芸術文化活動は、年を追うて次第にその幅と深さの両面に於て重厚さを加え、秋の芸術祭も年々これに参加する団体の数が増え、盛大となりつつあることはまことに喜ばしい限りである。

大分県関心流吟詩会に於ても、発足以来毎年の芸術祭に参加行事の一端に加えて頂き、中央の吟客を迎えて、「詩を吟ずる」吟詩大会を催している。

時流の変遷はあれど、吟詠は古典芸術の一部門であり、漢詩を基調とした邦楽である。漢詩文学に親しみ、それを吟じて、吟詠の芸術的価値を高めたものである。

県芸術祭のおかげで、毎回参加の吟詩大会の開催は、平素修練に励んだ結果発表の絶好の機会であり、またこれによって大分県芸術文化活動の一翼に寄与できるという一つの誇りともなっている。芸術祭は同好会員にとって目標であり、待望される行事となっている。芸術文化活動のますますの発展を祈念する次第である。

花の会

「花の会」代表 三浦美穂

歌のすばらしさを一人でも多くの方に知ってもらいたい、歌の世界を、活動の場を広げたいと思い「芸振」の会員になった。そんな夢を持ち25回、27回と県芸術祭に参加し、会員になれてよかったと思っている。それは、プロとしての自覚、一定のレベル以上の舞台をと求めてこれたのは「芸振」の会員であるというプライドがあったからだ。

広く県民に解り易い芸術というもの、すばらしい芸術というものは、必ずしも一致しないと思う。しかし解り易くなくても、すばらしいもの、感動を与えられる芸術はきっとわかってもらえると思う。一方で芸術を一般

化するための活動と、他方、迎合することなく、より高い芸術を求める活動とが必要である。県芸術祭は後者を求めているものと解釈している。

今はまだ未熟で、求めるものと表現できるものとの格差は大きい、「芸振」の会員であるということの意味を私なりに心に留め、県芸術祭に参加していきたいと思っている。

大分マンドリンオーケストラ

大分マンドリンオーケストラ

会長 宮吉寛

10月6日、県芸術会館ホールで、県芸術祭参加による定期演奏会を開催した。当団は春に独奏重奏まつりと、九州マンドリンフェスティバル出演、七月に大分県マンドリン連盟加盟団体の合同演奏会、秋に定期演奏会、その合間に芸振の学校巡回公演等、多忙なスケジュールを消化している。特に定期演奏会は県下のマンドリン音楽普及発展をめざし、曲目も「演奏レベルを向上させるもの」「団員の楽しめるもの」「観客に喜んで頂けるもの」を適当に配分して取り上げるなど、単なる発表会とならないよう、留意している。芸術祭も27回を迎え、県下の芸術振興の功績は大きい。それを受けて今後我々演奏団体が、質的に向上しつつある観客の期待に応えられるだけの実力を養い、ハイレベルな演奏を提供できるよう努めることが肝要と思われる。

宮永颯扇会

「宮永颯扇会」代表者 宮永育子

物の豊かさをもたらした高度経済成長期から心のやすらぎ、うるおいの文化と移り、先人のお陰で平和の良き時代に、芸振に参加という幸せな私達は感謝で一杯の気持ちであります。大変な時代を歩んでこそ芸術の深みも出、夢ある世界を慈しみたくります。

素晴らしい能楽堂もでき、これを若い方達に浸透させるべく、講座に、働く方々に、夜間教室に精を出して一年になり、発表会も試みました。若さ故に何といきいきと躍動の成果を見せました。そのすどい感性に大変な希望を抱いてます。能楽はむずかしく、高齢の高尚なおたのしみ、と思われてますが、指導により理解を深め、歩み寄って来れてますが、今一つコンクールで振興会議賞でも戴けるシステム等、良き古典芸能の振興になるのでは、と思います。中央から最高の演者をお招きしてますが、地元のみで手造りの能楽も夢でなく、低額で濃度のある能楽を実現するには、人材の養成を第一に切望してます。高文連の中にぜひ能楽部門も入れて戴きたく、先ず国立能楽堂にある様に「学生鑑賞能」等、芸振のお力で実現したいものです。世界に、あらゆる分野にはばたく若人の為、日本文化を語れるには一見が大切だと思います。「花伝書」の心より、心に伝える花(魅力)の原点を見つめてもらいたいと念願してます。能楽堂を多部門でもっと活用する方法を皆様で考えて戴くのも如何かと思ひます。



1991年度海外研修を終えて

大分県立大分鶴崎高等学校教諭 柚野朝男

海外研修の機会を与えて頂いた時、最初に考えた事は、日頃実現しにくいことをしてみたいという事だった。地球上の5分の1の酸素を産むというアマゾンに生命の根源の姿を感じていた私は奇々怪々な植物や動物に触れることで私の中の通常の形態感が大きく変わるであろうということを期待してところが全国で5名というツアーが集まらず、ペルーでのテロ事件もあいまって、アマゾン行きの中断を余儀なくさせられた。(ペルー側の支流からアマゾンに船を下る予定だった。)非常に残念であったが、もうひとつの希望であった最先端の文化・文明を見たいという望みは実現することが出来た。一ヶ月のアメリカ旅行のうち、2週間はペンシルヴァニア州クーパーズヴァークという町で過ごした。工芸をベースにした木彫家やオブジェ作家のアトリエ訪問やパーティー参加で実に楽しい日々を送ることが出来た。こちらの作家の「落ち着いた芸術的生活、は、せわしげな日々を暮している私には実に魅惑的だった。アトリエ訪問の合間には、広大なカントリー風景のスケッチや魚釣りを楽しんだ。カントリー旅行で印象深かったのは、フィラデルフィアにあるワインカラー美術館訪問であった。この美術館は3階のうち、2階を恒常的にワイエス親子3代の作品展示にあてており、日本では考えられない程、焦点をすえた展示がなされている美術館であった。特にアンドリュー・ワイエスの今年描いた大小の作品・数十点を見ることができ、心が踊った。アメリカで最も人気のある作家の1人というワイエスを大切にしているフィラデルフィアの市民と彼の作品から、彼等が大切にしているアメリカ人の生活感が伺え、私のアメリカ観が少し掘り下げられたようで嬉しかった。しかもカントリーで出会った人々が大切にしているものと一致しているのを見た時、ワイエスの目の確かさを感じた。変転極りない日本と違い、しんの太い柱、古くて長い文化的生活の柱を感じることが出来たのは大きな収穫であった。ニューヨークではマンハッタンの屋外彫刻を中心に歩いて歩いたが、巨大なビルの合間に、これまた巨大な抽象彫刻があちらこちらに置かれており、現代都市の洗練された美と喜びを十分に味わうことが出来た。スペースが充分にとられ、作品と背景がマッチしているので、日本の街並み彫刻によく見られるような「つけ足し、的な雰囲気がない。あくまで建築と対等に設置されており周囲の雰囲気を大きく変える程の存在感を持っている。この様に、アートが大切にされる背景には行政と企業のタイアップが欠かせない様である。行政の姿勢もさることながら、企業の文化を支える姿勢の差を感じた。一ヶ月という短期の研修であったが、様々な感慨を持つことが出来た。今後の自分の仕事に少しでも反映していきたい。最後にこの機会を与えて頂いた県芸振会議に厚くお礼申し上げ粗雑な報告であるが結びとしたい。

「仏の里」と「童話の里」 の文化交流会

玖珠町文化振興会議会長 古 後 和 男

平成3年3月8日、玖珠町文化振興会議と国東町文化協会が前年から数回の交流会を重ねて意気投合、茲に仏の里と童話の里の文化交流会と銘打って姉妹締結の調印式を挙、正式に発足した。県芸術文化振興会議・仲町謙吉会長を仲人役として両町文化団体の代表者、両町長、議会議長、県議等、あわせて120余人の参加出席を頂き、記念式典が厳粛の中にも和やかに執り行われた。玖珠町文化振興会議は昭和42年10月発足、毎年文化の日を中心に県芸術祭参加の文化祭を開催。県芸術祭功労賞を2回受賞。現在、加盟団体30、会員数1,300人余。国東町文化協会は昭和45年11月に結成され、以来毎年県芸術祭参加の総合文化祭を開催。この間、県芸術祭功労賞を2回受賞している。現在、加盟団体41、会員数1,700人余。両団体とも歴史や風土が極めて似通った環境の中で活動を積み重ねてきた。仏の里と童話の里の文化交流会発足後の活動、さらに将来に向けての目標については、①役員レベルの定期的な交流を行い、新しい地方文化の流れを起すことを主とした活動を計画する、②ジャンル別の交流を行う、③各単位ごとの交流を行う、④独自の文化ネットワークづくり人材情報の交換を行う、⑤両団体が主催する文化祭及び行事に招き、交流を町民的な広がりまでに浸透させる、⑥予定される10年後の国民文化祭に向け両町独自の文化をつくり出す、以上6項目にわたっての計画目標にジックリと取り組み、活動を展開していかなければならない。地方の時代、そして地域文化の新しい創造を育む先がけとして、我々両町の文化団体は心を一にして、目標達成に大いに努力精進を惜しまないものである。さらに、仏の里と童話の里の文化交流会の活動が県下58市町村の1村1文化の興隆進展にいささかでも寄与できれば、この上ない喜びである。今回の仏の里と童話の里の文化交流会締結に対して、温かいご理解とご支援を賜った大分県教育委員会、大分県芸術文化振興会議、さらに国東町玖珠町両教育委員会関係者各位に、深甚の謝意を表する次第である。

〔註〕 「平成を豊かな心で築く玖珠第22回玖珠町文化祭」と「夢咲きくにさきふるさとまつり第22回国東町総合文化祭」の交流交歓も昨11月17日で終了、平成3年度事業はこれで一切を完了しました。

〈平成3年度の主な事業〉 ①第42回日本童話祭パレード参加

②両団体交流詩吟大会

③第22回文化祭参加交歓

(いずれも第27回大分県芸術祭参加)

事務局だより



「文化を語る夕べ」盛大に開催

今年も12月12日5時から、大分県市町村会館2階ホールに約191人が集い盛大に開催された。この会は、文化団体の交流・親睦の場として、また文化関係受賞者のお祝いをおこなった意義ある会であります。

はじめに仲町会長が挨拶、続いて平松知事、宮本教育長がお祝いのご挨拶、続いて芸術文化活動の現況報告、地域文化功労者・県芸術祭受賞者の紹介並びに海外派遣研修者の紹介を行った後、自由歓談となり、本年の文化活動などについて和やかに懇談した。

平成3年度

会員の秋の受賞者紹介

- ★平成3年度地域文化功労賞(文部大臣表彰)
安部伸平(大分県美術協会名誉会員・書家)
- ★第43回大分合同新聞文化賞・芸術部門
野田南圃(大分県美術協会名誉会員・書家)

「大分県文化年鑑91年版」の編集開始

編集委員・執筆委員の先生方には、大変なご尽力を頂いているところですが、本年度第1回の編集委員会で、編集方針、今後のスケジュール等が決定しました。

編集委員の先生方は、各ジャンル(執筆委員)の執筆をとりまとめ、1月末迄に事務局に提出することになっています。会員の方で資料提供等の依頼があった場合は、よろしくご協力お願いします。

平成3年度の日本芸術文化基金助成金決定

さきに要望書を提出していた、大分県関係の助成金が、次のとおり決定しました。本県の芸術文化の創造、及び普及活動に一層のはずみがつくものと期待しています。

区 分	助成対象活動	助成対象団体	助成金の額
地域文化振興活動	「法隆寺の世界……いま開く仏教文化の宝庫」展	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	8,700,000
	生誕100年記念「福田平八郎展」	大分県立芸術会館	1,500,000
	ミュージカル「葡萄畑のラビット」	弥生町教育委員会	800,000
民俗文化財の保存活用活動	庄内神楽まつり	庄内町	900,000
文化振興普及団体活動	大分県芸術祭「協奏曲の夕べ」	大分県芸術文化振興会議	1,000,000
	大分県芸術祭「県美展地方巡回展」		1,000,000
	30周年記念大分・ソ連友好バレエ公演	大分県洋舞踊協会	4,000,000
	20周年記念佐伯市芸術祭	佐伯文化振興会	300,000
	ゆふいん音楽祭	ゆふいん音楽祭実行委員会	1,400,000